

ふりがな

さか なつこ

氏名

坂 なつこ

---

## 1. 学歴

- 1994年3月 立命館大学産業社会学部卒業  
1996年3月 立命館大学大学院社会学研究科博士前期課程修了  
1999年3月 立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学

---

## 2. 職歴・研究歴

- 1999年4月～2002年3月 立命館大学産業社会学部 講師（非常勤）  
2001年4月～2002年3月 佛教大学社会学部 講師（非常勤）  
2002年4月 一橋大学大学院社会学研究科 講師  
2004年4月～2005年2月 Honorary Research Fellow, Department of Sociology, University College Dublin, Ireland  
2007年4月 一橋大学大学院社会学研究科 准教授  
2011年4月 一橋大学大学院社会学研究科 教授

---

## 3. 学内教育活動

### （A）主な担当講義名

#### （a）学部学生向け

スポーツ方法I・II、スポーツ演習、スポーツと文化、スポーツ社会学の基礎、スポーツ文化論

#### （b）大学院

国際スポーツ論

### （B）ゼミナール

教養ゼミナール、演習（学部後期、大学院）

---

## 4. 主な研究テーマ

スポーツ社会学、余暇・文化、ノルベルト・エリアス、アイルランド研究

---

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### （a）著書・編著

- ・「スポーツと『男性性の保護区』の変容」川本玲子編著『ジェンダーと身体 開放への道のり』2020年、小島遊書房、150-171頁。
- ・「ドーピングって何？」坂上康博編著『12の問いから始める オリンピック・パラリンピック研究』かもがわ出版、2019年、44-53頁。
- ・「個に寄り添うーセクソロジーからヒューマンセクソロジーへ」佐藤文香・伊藤るり編著『ジェンダー研究を継承する』人文書院、2017年、453-456頁。

- ・「スポーツにおけるジェンダー関係の変化—アイルランド・ゲーリックゲームズ」『ジェンダーと社会—男性史・軍隊・セクシュアリティ』旬報社、2010年、363—385頁。
- ・「スポーツナショナリズム—アイルランドにおけるスポーツ」高津勝・尾崎正峰編『越境するスポーツ』創文企画、2006年、121-154頁。
- ・T. Yamashita/ N. Saka, Another Kick Off; World Cup 2002 and Soccer Voluntary Groups as a New Social Movement', J. Horne/W. Manzenreiter [eds.], *Japan, Korea and the 2002 World Cup*, Routledge, 2002, pp. 147-161.

## (b) 論文

- ・「ノルベルト・エリアスにおけるサバイバルユニットとスポーツ」『一橋大学スポーツ研究』37巻、2018年、59—64頁。
- ・「スポーツと『男性性の保護区』」『一橋大学スポーツ研究』36巻、2017年、25—28頁。
- ・「超人スポーツが提起する新しいスポーツの地平」『一橋大学スポーツ研究』35巻、2016年、63—66頁。
- ・「グローバリゼーションとローカリズムのアリーナとしてのスポーツ」『一橋大学スポーツ研究』34巻、2015年、36—39頁。
- ・「アイリッシュディアスポラとスポーツ研究に向けて：アイルランド共和国におけるディアスポラ政策の現状と課題」『一橋大学スポーツ研究』33巻、2014年、80—85頁。
- ・「アイリッシュディアスポラとスポーツ研究—オーストラリアを例に」『一橋大学スポーツ研究』32巻、2013年、54—59頁。
- ・「スポーツにあらわれる境界：アイルランドとイギリス」『現代スポーツ評論』27号、2012年、65—74頁。
- ・「アイルランドにおけるマイノリティとスポーツ—トラベラー・コミュニティ」『一橋大学スポーツ研究』31巻、2012年、61—66頁。
- ・「スポーツにおける文明化論の可能性と今後」『スポーツ社会学研究』19巻1号、2011年、39—54頁。
- ・「EUとスポーツ政策」『一橋大学スポーツ研究』30巻、2011年、51—56頁。
- ・「アイルランドにおけるスポーツとジェンダーイメージの変化について」『一橋大学スポーツ研究』Vol.29、2010年、19-24頁。
- ・「アイルランド・スポーツにおけるジェンダー・女性研究にむけて」『一橋大学スポーツ研究』Vol.28、2009年、43-48頁。
- ・「アイルランド ナショナル・アイデンティティの多層性」『季刊民族学』130号、2009年、18-23頁。
- ・「アイルランドとヨーロッパ—ヨーロッパにおけるスポーツ政策とアイルランド（その1）—」『一橋大学スポーツ研究』Vol.27、2008年、3-10頁。
- ・「アイルランドにおけるポストコロニアリズムとスポーツ」『一橋大学スポーツ研究』Vol.26、2007年、3-10頁。
- ・「ナショナリズムとグローバリゼーション—アイルランドのスポーツを例に」『一橋大学スポーツ研究』Vol.25、2006年、11-18頁。
- ・「アイルランドにおけるスポーツ—ゲーリック・アスレティック・アソシエーションを例に」『一橋大学スポーツ研究』Vol.24、2005年、29-38頁。
- ・「文明化論再考—グローバリゼーションにおけるエリアスとスポーツ」『一橋大学 スポーツ研究』Vol.23、2004年、27-34頁。
- ・「スポーツと『新しい社会運動』—新潟 Alliance2002 の活動を例に—」『一橋論叢』第131巻、第4号、2004年、122-142頁。
- ・「スポーツと新しい社会運動の可能性—新潟 Alliance2002 を例に—」『一橋大学 スポーツ研究』Vol.22、2003年、11-20頁。
- ・「サッカーファンは社会を変えるか—調査中間報告：視点と仮説」『立命館大学人文科学研究所紀要』No. 79、

2002年、135-162頁。

- ・「サッカーファンのもたらしたもの—2002FIFAW杯をめぐるサポーター・ボランティアグループの活動—」『一橋大学スポーツ科学研究室 研究年報』2002年、58-61頁。
- \* 「エリアスにおけるスポーツ」『京都体育学研究』第14号1999年。
- 『「文明化」論の再検討—ノルベルト・エリアスの初期研究をめぐって』『立命館大学産業社会論集』第34巻第2号1998年。
- ・「課題としての歴史哲学—N. エリアスの哲学博士論文におけるカント批判をめぐって』『立命館大学産業社会論集』第34巻第4号1998年。

### (c) 翻訳

#### [単訳]

- ・リースランド, A., 『かわいい』 広告』『立命館大学言語文化研究』第9巻第1号、1997年。

#### [共訳]

- ・ジェリー, D. / J. ホーン, 「スポーツとレジャー研究におけるフィギュレーション社会学再論」(市井吉興・立命館大学文学研究科)、清野正義他編著 『スポーツ・レジャー社会学オルターナティブの現在』道徳書院、1995年。
- ・マクレラン, D., 「マルクス研究—過去と現在」(共訳: 山下高行・立命館大学産業社会学部助教授) 『立命館大学言語文化研究』第8巻第5、6合併号、1997年。
- ・クリューガー, M., 「スポーツ及びスポーツ科学に対するプロセス=フィギュレーション理論の意義について—ノルベルト・エリアス生誕100年によせて—」(共訳: 有賀郁敏・立命館大学産業社会学部助教授) 『立命館大学産業社会論集』第34巻第1号、1998年。
- ・ドゥフランス, J. / C.H. ポシェロ 「フランスにおけるスポーツの場の構造と展開(1960-1990)—「機能的」、歴史的、予測的分析試論—」(共訳: 山下高行・立命館大学産業社会学部助教授) 日本スポーツ社会学会編『変容する現代社会スポーツ』世界思想社、1998年。
- ・アーリ, J., 「世界市民性とメディア」(共訳: 池田知加・立命館大学社会学研究科)、松葉博文・立命館大学産業社会学部教授) 『立命館大学産業社会論集』第35巻第3号、1999年。

### (d) その他

- ・「特集のねらい: ラグビーワールドカップ特集」『スポーツ社会学研究』、27巻1号、2019年、19-24頁。
- ・「特集のねらい: スポーツ・身体と科学技術のサイエンス・カフェ」『スポーツ社会学研究』、23巻、1号、2015年、3-6頁。
- ・「特集のねらい: ジェンダー論的まなざしと身体のゆらぎ」『スポーツ社会学研究』、18巻、2号、2010年、3-4頁

#### 【書評】

- ・WADDINGTON, Ivan and SMITH, Andy, An Introduction to Drug in Sport: Addicted to Winning?, Taylor... スポーツ社会学研究、26巻1号、2018年、83-87頁。
- ・松村和則編『メガ・スポーツイベントの社会学 白いスタジアムのある風景』スポーツ社会学研究、16巻、2008年、123-126頁。

#### 【委託調査】

- ・「ドメスティックバイオレンス調査」（共同研究：友田尋子・大阪市立大学看護短期学部助教授、玉上麻美・大阪市立大学看護短期学部助手、菅田貴子・大阪市立大学看護短期学部助手）財団法人女性のためのアジア平和国民基金の委託により調査。1999年12月。

## B. 本研究科着任後の研究活動 [着任 2002 年]

### (a) 国内外学会発表

- \* 「社会科学系教員の立場から一若手研究者のキャリアパスを考える、ランチオンセミナー3、大会組織委員会企画」第64回日本体育学会大会、2013年8月28日、立命館大学。
- \* 「スポーツで築く地域のネットワーク」第2回日本感性福祉学会、2002年10月16日、東北福祉大学。
- 「エリアスにおけるスポーツ」第125回京都体育学会、1998年12月5日、龍谷大学。
- 「スポーツにおける『興奮の探究』と『文明化の過程』」日本スポーツ社会学会第6回大会、1997年3月26日、立命館大学。

### (b) 国内研究プロジェクト

#### 【科学研究費補助金】

- 「グローバル化する社会におけるスポーツと多様性に関する研究」（2015-2018年、研究分担者）
- 「グローバル化社会の多様化する主体／コミュニティと「生活圏」としてのスポーツ研究」（2017年-現在、研究代表）

### (d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

第24回日本スポーツ社会学会 研究委員会シンポジウム「政治とスポーツ」2015年3月22日、関西大学。

---

## 6. 学内行政

### (A) 役員・部局長・評議員等

学生担当副学長補佐  
障害学生支援室長

### (B) 学内委員会

学生委員会、(旧) 共通教育専門委員会、(旧) 学部教育専門委員会、入学試験実施専門委員会、機関リポジトリ運営会議、安全衛生委員会、一橋ジャーナル編集部

---

## 7. 学外活動

### (b) 所属学会および学術活動

日本スポーツ社会学会 [理事 (2017-18年度、2015-16年度)、事務局 (2015-16年度)、『スポーツ社会学研究』2009-2010年年度、2013-14年度編集委員]  
日本社会学会  
日本アイルランド学会  
スポーツ科学研究所 [『現代スポーツ研究』編集委員長 (2016年~現在)]

---

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

東京都環境局東京 2020 オリンピック・パラリンピック環境アセスメント評価委員会

東京都中央区生涯スポーツ審議会（副委員長）

国立市スポーツ推進委員会

財団法人くにたち文化財団理事

---

## 9. 一般的言論活動

2013 年 3 月 9 日 毎日新聞（夕刊）「スポーツを考える」